



平成 26 年 11 月 25 日



越冬隊体験と「南極物語」を見聞して 第13次越冬隊員

院長 三和敏夫

先日名優「男の中の男」と言っていた高倉健氏が死去された。あんなかっこいい頑丈な体格と強い精神力を持っていたと称された人でも病（悪性リンパ腫）には勝てなかった。マスコミで訃報が流れ、翌日から追悼番組がテレビなどで数々放映された。その中で私が特に印象深かったのが約32年前の「南極物語」である。主役は南極に残されたカラフト犬達であり、約1年半極寒の地でかろうじて生きていたタローとジロー物語。高倉は越冬隊員で犬の世話係も仕事として熱演された。上映された映画館は満員で感動と興奮を引き起こす盛況であった。事実は第2次越冬隊（宗谷丸）の悪天候が続いた悲惨なむごいドキュメンタリーでもあった。実は私も第13次越冬隊員（昭46年11月～昭48年3月）で『ふじ』で出航した元OB隊員。

閑話休題。この3～4年前より毎年日本のどこかの温泉地域（幹事が毎回変わるので）で13次隊会（同門会）が開かれている。今年は仙台市で2泊3日で出席率は7割。越冬隊長は88才で直前まで出たいと強気でいられたが、直前に風邪をひかれ肺炎症状で入院されめずらしく欠席。同隊長は元海軍特攻予備学生出身で恐ろしかった。

私は仕事を持っている現役なので4～5年ごとに出席し、わずか1日間の寸時の交流を努めている。ある年では九州や四国等で開かれ、隊友は私以上の年齢なので北海道等の遠方や冬期開催はない。もう3年先の幹事と地名も内定している。若い時は飲みすけばかりの豪傑な山岳野郎も今ではヤカン頭で血圧等に悩み、飲むことも減ってきたことは種々なクラス会等とほぼ同じムード。

